

【千葉県】グループホーム おたがいさま

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 4月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	1274000213
法人名	特定非営利活動法人 おたがいさま
事業所名	グループホーム おたがいさま
所在地	千葉県富里市御料694-3 (電話) 0476-92-9501
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉縣市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 12 人
職員数	14 人 常勤 9 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 12.35 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨作りストレート 造り 2 階建て, 1 階 ~ 2 階部分
------	------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,583 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷金	有() 円	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 300,000 円	有りの場合 償却の有無	有) / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	12 名	男性	4 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	79 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高根病院
---------	------

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな住宅街の中に「グループホームおたがいさま」がある。施設にはデイサービスが併設されており、相互の交流を通じて生活の活性化を図っている。玄関は季節の草花が植栽されており明るい雰囲気を感じられる。また、天気の良い日には外に椅子を置き、日向ぼっこ等が楽しめるようになっている。施設内はリビングの窓が大きく、十分な採光が得られ明るい環境作りがなされている。2階へ続く階段は幅が広く設計されリハビリにも活用されている。共有空間には入居者の作品や好みに合わせた写真等が掲示されていると共に、ソファや椅子が置かれくつろげる環境となっている。理学療法士の指導のもとリハビリの取り組みに力を入れており、全国集會にてリハビリに関する研究の発表を行っている。入居者はリハビリに対し意欲的に参加しており、一人ひとりが職員と共に身体機能の維持・向上に取り組んでいる。職員の質・入居者の尊厳・地域密着を理念に掲げ、職員全員が理念に基づくサービスの実施に努めている。また、職員に対する待遇や教育体制がしっかりなされており、やる気と責任感を持って業務に臨んでいる。定期的に業務の自己評価、達成率の数値化を行う事で更なるサービスの質の向上に施設全体で取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価においての改善課題としては、希望の掛かりつけ医への受診支援と災害時における近隣との協力体制が挙げた。受診支援においては、柔軟な支援により改善されている。協力体制においては、運営推進会議等を通じて、近隣との体制を整える為、検討している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価においては、管理者・計画作成担当者が主になって、全体会議にて全職員の意見を集約し、作成している。改善点が指摘された場合は、全体会議にて検討し適切な改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	富里市高齢者福祉課職員・民生委員・入居者家族・施設関係者を構成員とし、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、施設の事業報告と事業計画の話し合いが行われている。また、行政や地域との情報・意見交換を通して、事業運営の向上に努めている。その他、リスクマネジメントに関する意見交換を行い、緊急時等の協力を呼びかけている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見・要望においては、苦情・相談窓口を設置すると共に、面会時に確認を行っている。挙げた意見・要望等においては、職員や必要関係者と検討し柔軟に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会・や商店会に加入し、お祭りやゴミゼロ運動に参加する他、施設での花火大会を近隣の住民と一緒に楽しむ機会を設けている。また、地域の方々への介護相談等を行い地域貢献もしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設では、「三つの理念ふくろう」を軸に、職員の質の確保・利用者の意思の尊重・地域密着を意識した理念を掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有については、入職の際と各会議において周知・確認を行っている。また、年度末には理念・事業計画の評価を全体会議で行い、内容を文章と数値化で表し、より具体的な意識の統一が図れるよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会・や商店会に加入し、お祭りやゴミゼロ運動に参加する他、施設での花火大会を近隣の住民と一緒に楽しむ機会を設けている。また、地域の方々への介護相談等を行い地域貢献も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においては、管理者・計画作成担当者が主になって、全体会議にて全職員の意見を集約し、作成している。改善点が指摘された場合は、全体会議にて検討し適切な改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	富里市高齢者福祉課職員・民生委員・入居者家族・施設関係者を構成員とし、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、施設の事業報告と事業計画の話し合いが行われている。また、行政や地域との情報・意見交換を通して、事業運営の向上に努めている。その他、リスクマネジメントに関する意見交換を行い、緊急時等の協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れを行っており、入居者や職員との対話や相談に応じてもらっている。また、市に入居者や業務の相談を行い、適切な業務運営に努めている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者の生活状況等の報告を行っている。日々の経過記録やレクリエーション作品ファイル等の閲覧により、日々の生活状況をより詳細に報告している。また、入居者によっては、職員がカレンダーに日記をつけて報告する等の工夫を行っている。行事の案内等を請求書送付時に同封し参加を呼びかけている。受診や生活状況に変化があった場合にはその都度電話にて報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望においては、苦情・相談窓口を設置すると共に、面会時に確認を行っている。拳がった意見・要望等においては、職員や必要関係者と検討し柔軟に対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在の所、職員の定着率が高く、人材は安定している。退職時には、入居者の状況や様子を見ながら報告を行っている。入職時には慣れた職員と共に業務に当たり、入居者と馴染みの関係を築ける環境作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、全職員が研修に参加できるように機会を設けている。研修後には報告会を行い、情報の共有に努めている。内部研修においては、資格の取得における対策・指導や接遇や介護技術の勉強会を行っている。また、定期的に業務における自己評価を行っており、課題や反省点の気付きを大切に、職員の質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと連携し、交換研修を行っており、他の施設の優れた部分を取り入れ、サービスの質の向上に努めている。市のグループホームの連絡会を通じて困難事例の検討や情報を交換し、相互に質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時、見学を実施しており可能であれば本人にも来所してもらい施設の雰囲気に馴染んでもらっている。また、一定期間の入居を通じて本人の反応を見ながら相互に入居を決めていく体制を取っている。入居後は本人の生活歴に出来るだけ合わせた生活を支援し、笑いを交えながら施設に慣れてもらうよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	能力や希望に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。リハビリやレクリエーションにおいての入居者と職員の関わりを大切にしている。職員は入居者に教養や礼儀作法等を学び、時には労いや癒しを受け、共に生活する関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訪問面談を通じ、本人や家族から意向や生活歴を聴取し記録している。また、本人の意向や要望は日々の生活の中から汲み取り、その都度記録していると共に、会議を通じて周知を行い、本人の意向や要望に沿えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画においては、会議を通じて職員全員から意見やアイデアを集め、担当職員・計画作成担当者・管理者で作成を行っている。計画作成担当者が家族から直接意見や要望の確認を行い、本人が自分らしく生活できる介護計画の作成に努めている。作成後は、会議にて職員への周知徹底を図っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っている。また、生活状況に変化があった場合や必要と判断された場合にはその都度見直しを行っている。日々の生活状況や気付きの記録や会議で挙がった意見・アイデアを考慮し、担当職員・計画作成担当者・管理者で作成を行っている。計画作成担当者が家族から直接意見や要望の確認を行い、本人が自分らしく生活できる介護計画の見直しに努めている。作成後は、会議にて職員への周知徹底を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の入院時にはお見舞いに行き、医師との情報交換を行い早期の退院を支援している。リハビリの取り組みに力を入れており身体機能の維持・向上に努めている。また、希望に応じた買い物やドライブ等の外出や外食等、入居者の要望に応える支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望の掛かりつけ医への受診が可能となっている。通院においては、希望により職員が支援している。看護師配置による医療連携体制を取っていると共に、希望により医師による往診を実施しており入居者の健康管理を適切に行っている。また、理学療法士との連携により入居者の身体機能の維持・向上に努めていると共に、リハビリの研究にも力を入れており、全国の集会で研究発表を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における施設の方針や対応については、家族の同意を得ている。重度化した場合においては、家族・医師・職員で連絡・相談をしながら具体的な対応方法を検討し、家族や本人の意向に沿った終末期を支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要書類においては、所定の場所で管理し、個人情報の保護に努めている。接遇においては、入居者の尊厳を大切にされた対応を心掛け、言葉遣いや申し送りの方法に注意した上で、入居者のプライバシー保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は定めておらず、入居者の希望やベースに合わせた自由な生活を支援している。希望が言い出せない入居者においては、声掛けや会話の中から希望を汲み取り対応している。希望に対して入居者の意思に否定をしないよう職員に教育をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望や能力に応じて調理、準備、片付け等を共同で行っている。管理栄養士による講習や指導を受けており、入居者の希望と栄養バランスに配慮した献立作成に努めている。また、定期的に外食会を行い、食に対する楽しみを支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しており、希望により回数等柔軟に対応している。また、体調や希望に応じて清拭・手浴・足浴にて入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否に関しては、声掛け等を工夫し、無理のない入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の随所に一人ひとりの能力や希望を活かした役割があり、職員と共同で積極的に行っている。写真や編み物等の趣味活動や塗り絵や漢字の読み書き等、個々の心身機能を活かしたレクリエーションを行っている。入居者がリハビリを意欲的に行っており、一人ひとりが機能の維持・向上に喜びを感じながら取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に行事を企画し、海や成田山の祇園祭等に外出している。また、日常においての散歩支援や希望により外出・外食の付き添いを行っており、戸外での楽しみを支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけてしまうことで職員の視野が狭まり、ケアの質の低下に繋がると考えているため、日中の施錠については行っていない。ドアにベルやセンサーを設置し、安全面での配慮を行っている。入居者が外に出た場合は声掛けや見守りにて柔軟に対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、緊急連絡網の整備を行なっている。消防・避難訓練、夜間想定訓練を2ヶ月に1回行っている。緊急持ち出し袋や備蓄の準備がなされており、緊急・災害時への対策を行っている。		施設として災害対策における地域との協力体制の整備は今後、運営推進会議等を用いて協力・要請する必要があると課題があがっている。これまでに築いてきた信頼関係より万全な災害支援体制が整備されるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や能力に合わせた食事提供がなされていると共に、食事、水分の摂取量をきちんと記録している。摂取量が少ない場合には、好きな物や栄養補助食品を提供し、必要な栄養の確保に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアには、入居者と職員が季節に合わせた装飾を作成し、飾り付けをしている。また、ソファーやテーブル、椅子等が置かれ、一人ひとりがゆっくりと過ごせる環境作りがなされている。入居者の身体状況に応じて柔軟な対応をしており、安全面だけでなく「住みやすさ」にも十分な配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望に応じて馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっており、居心地良く過ごせる環境作りがなされている。身体機能に合わせた寝具やナースコール、センサーの設置を行っており、入居者の安全に細かく配慮している。全居室にエアコンが設置されており、職員により適切な空調管理がなされている。		